

皆様、先日の坂井先生の講演会には行かれましたか?? 僕もう何回も聞いていますが、聞くたびに発見があるっちゃうか、その時々の時の自分のレベルで理解する部分が違うと言うか・・・ほんと坂井先生の話は自分のリセットボタンの役割ですね。

内容はさることながら、話の組み立て方がやっぱり上手。最近人前で話す事が多くなってきたので、こういう組み立て方はほんとに勉強になります。「世間は思った以上にやさしい」とか「当たり前の偏り」とか気づきが山盛り。きっと聞く人によって少しずつ意味が違って来るんやろうなあ。実は僕が良く言う「ふかいアンテナ」は坂井先生からインスピレーションを受けた言葉なのです☆聞き逃した人は次回は是非! 久田

第 62 回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

☆コミュニケーション手段には

コミュニケーション手段には様々なものがあることは誰もが知っていることだと思います。

多くの人たちが使っている音声表出もコミュニケーション手段のひとつだと考えることができます。

その他にも、手話やジェスチャーなどをコミュニケーション手段として用いている人もいます。

また、文字を使った筆談もコミュニケーション手段となります。パソコンやスマートフォンのメール機能もコミュニケーション手段のひとつであると考えられるでしょう。このような手段のひとつとして、コミュニケーションエイドに分類されるものがあります。コミュニケーションエイドというと、どのような物が想像もできないという人がいるかもしれませんが、しかし、そんなに難しく考えるものではありません。言語障がい等コミュニケーションに障がいのある人がコミュニケーションするために利用する様々な手段の総称をコミュニケーションエイドと呼ぶのです。

コミュニケーションエイドは、電子的な作りをしているものと非電子的な作りをしているものの二つに大きく分類されます。非電子的な作りをしているものは、シンボルカードや写真カード、文字盤等がその代表的なものであるといえます。PECS も非電子的なコミュニケーションエイドを使ったコミュニケーションのシステムということです。

電子的な作りのものは、その代表的なものとして VOCA (Voice Output Communication Aid) があげられます。簡単なボタン操作ひとつで音声等を発声させることができるものです。VOCA の最大の特徴は音声を発することができるため、その伝達性が高いということがあげられます。伝わりやすいということは、相手からのフィードバックを得やすいということにもつながります。その結果、相手に伝わったという実感を体験しやすくなるということなのです。この特徴を活かすコミュニケーション環境を作ることができれば、重度の障がいのある人にもコミュニケーションが成立する体験を味わってもらうことができるのです。

VOCA には、一文字一文字文字を綴ることによって細かく発声させ、詳細に自分の意思を伝えることができるものもあれば、ひとつのスイッチで、そのスイッチにあらかじめ登録しておいた音声を発声させるタイプのものなどがあります。現在、日本でも 50 種類以上の VOCA を手に入れることができるようになっているのです。

どのようなコミュニケーションエイドがあるのか。一度インターネット等で調べてみて下さい。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013 年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための 10 のアイデア (エンパワメント研究所) など